

第7回リハ工学カンファレンス 参加報告

by 大和なでしこ

今回のリハ工学カンファレンス（主催：日本リハビリテーション工学協会）では、職業リハビリテーションのセッションがあること、就労問題に関する演題があること等の情報を得た。また開催地が神戸であったという好条件から初めて参加したので、報告する。

〔〔第1日目〕〕

第1日目のセッションは、下表のとおり。（詳細な演題・発表者は省略）

	第Ⅰ会場	第Ⅱ会場
セ ッ シ ョ ン	§ 姿勢保持Ⅰ・Ⅱ § 遊具・スポーツ 福祉機器コンテスト § 排泄支援機器 § E C S ・ロボット	§ 計測評価Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ § 自動車 S I G



会場は、2カ所設けられており、同時進行の形式だった。1日のプログラムが終了すると、1時間半程ナイトセッション（セッションごとの講演者、座長を囲んでのディスカッションの場）も設けられていた。ここで、講演中には聞けなかった事などを質問したり議論したりした。この日は個人的に興味のあった遊具・スポーツ及び自動車 S I G のセッションに参加した。

遊具・スポーツの中の2題は、両下肢障害者のためのチェア・スキーの実際をビデオで紹介するものと競技用チェアスキーの開発であった。私はスキーが趣味であるが、両下肢障害者とスキー場で会ったことはない。このような分野で研究がされていることを全く知らず、会場では驚いてばかりだった。

元来、私は福祉機器などに関して、これまで全く興味も知識もなかった。超ド素人だったので、今回のカンファレンス参加は、驚きと感動の連続であり、自分の認識の中で大革命が起こっていた。

会場を移動し、自動車SIG (Special Interested Group; 特に興味のある人のグループ) で「京阪神のリフト付バスの調査」報告を聞いた。また、ナイトセッションもここに参加した。

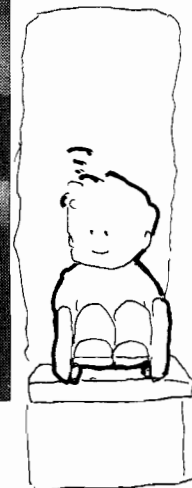
リフト付きバスは一般のバスと比べて大きく4つの違いがある(機能が付加されている)。1. 料金箱移動装置 2. ステップ→リフト変換 3. 車椅子固定装置 4. 車椅子用スペースの確保 このため、バスの値段が2700万円と普通のバスに比べて1000万円も高くなっている。現在、大阪で11台、京都・神戸で2台(+1台購入予定)が運行されており、京阪神の中では大阪が最も進んでいることがわかった。バスの乗り降りにかかる時間は、慣れる(運転手・障害者共)と1分くらい。運行本数が少ない、路線が少ない等、利用者側には問題がいろいろあったが、経営側からも利用者の数が少ない事等が問題に挙げられていた。

都市内の移動手段としてバス・タクシーが一般に考えられるが、今後は電動車椅子のスピードアップ(時速20km等)と併せて考えていかれるようになるかもしれない。

運転手が慣れるために、障害者が慣れるために、さらにバスの必要性をもっとアピールするために積極的に障害者に利用してもらいたいと思った。



【ナイトセッションの様子】



福祉機器コンテストの表彰式も覗いてみた。いろいろな発想で少しでも便利なようにと種々の機器が発明されていた。総評の中に、介護者が便利なようにと作った応募作品の中に、すでに市販されているようなものがあり、情報の伝達不備(広報不足?)を考えさせられた、というのがあった。最近、私もいろんなところで感じている事であった。

〔〔第2日目〕〕

第Ⅰ会場	第Ⅱ会場
§ 車椅子Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	§ コンピューター操作支援 § 特殊教育 § コミュニケーションⅠ・Ⅱ

Ⅰ会場では車椅子に関する種々の研究開発報告や実態調査等がなされていたようだ。2日目は、Ⅱ会場の演題を主に聞いた。

コンピューター操作支援では、ソフト開発に重点をおいた演題が多かった。しかし、その対象者は弱視者、重度肢体不自由者、脳性麻痺者など広範囲に及んでいた。また、機器開発の演題もあった。ソフトの方で「手・足の不自由な人達のためのキー入力ソフトウェア」開発の演題があった。このソフト開発者の1人が2級の脳性麻痺者で、3年前に開発したものであった。当時、一般向けには市販されていなかったソフトが必要となったので自力で開発することにした。しかし、当時同様のソフトは既に開発されていた。作成前に発表者が情報を入手していれば・・・と思わずにはいられなかった話である。

コミュニケーションのセッションでは、失語症者や聴覚障害者のためのコミュニケーション・エイドがいろいろ開発されており、それらの講演があった。

〔〔第3日目〕〕

第Ⅰ会場	第Ⅱ会場
§ 自立と技術支援Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	§ 義肢装具・FES § 介助機器Ⅰ・Ⅱ
§ 職業リハビリテーション	§ リハ機器・自助具



今回のメイン。今日、聞いたのは、「自立と技術支援」と「職業リハビリテーション」のセッション。

前者では、以下3人の話を中心に聞いた。田村辰男さん（頸髄損傷者）は現地でボランティアを見つけながら長期旅行を可能にしていった過程を講演された。上村数洋さん（人クローズアップの人）は、障害者の自立とリハ工学の関わり合いの話の中で”技術力の高い日本のリハ工学、もう少し障害者に目を向ける必要があるのではないか”という一言が印象的だった。清家一雄さん（重度四肢まひ者の就労問題研究会代表）は、海外での頸損者の就労状況の話がされた。

清家さんは北九州で精力的に重度四肢まひ者の就労問題を解決しようと活躍されている方で、近い将来、FLANKERにも登場していただく予定である。



【清家さんの講演の様子】

職業リハの方で印象深かったのは、井手さん（総合せき損センター）の”要介助の四肢麻痺者の就業へのアプローチ”の演題の中でアプリケーションソフトを使用することで年賀状を作成する仕事を紹介されていた。これは50枚までの一般印刷業者では扱わない客をターゲットに絞ったことが成功の秘訣だった。またこの四肢麻痺の方はプログラマーをめざしてパソコンを始めたが、それにこだわらず、途中で方針を切り替えた（アプリケーションソフトを使用し、付加価値の高い仕事を行った）ことも成功の原因になっていた。

このセッションの最後に、「日本障害者雇用促進協会における職業リハビリテーション情報提供システムについて」の発表があった。（この協会については、FLANKER創刊号を参照のこと）ここでは現在、以下の5つのデータベースを作成している。

1. 雇用事例情報
2. 社会資源情報
3. 環境デザイン・機器情報
4. 職業リハ文献情報
5. 国立図書館文献情報

今回開発されたデータベースは、障害者雇用に間接的に結びつく材料の提供という位置づけであるらしい。これらのデータは、プライバシーの保護、著作権の保護等のため、不特定多数の者の利用はできず、各地方の障害者雇用促進協会に情報提供される。従って我々は、センターで専門職員のアドバイスのもとで利用することになる。今後は、求人・求職情動的な、さらに一步すすんだ直接情報の提供を待ちたい。

講演後、「職業リハ」の発題者を囲むイブニング・セッションで、職業訓練校やハローワークが障害者を足切りするのに、「障害*disability*の重度さ」と「職能のhandicapの重度さ」を使い分けず、また窓口の人間の判断にまかせている*基準*のバラバラなことについても議論した。結局、現状では窓口に任せるというあってないような*基準*しかできないという結論であった。

また、障害者の就労形態について、プロップでは在宅就労が有力な形態であると考えているが、専門家が集まっているこのようなセッションでも在宅勤務の認識は低かった。一般企業に、在宅就労の考え方を広めていくのは容易な事ではないと感じた。



[[3日間を通しての印象]]

障害者のためのリハビリテーション工学なのに障害者の姿は少なかった。「障害者不在の機器開発」、「機器の一人歩き」。どこかでささやかれていた言葉がふと浮かんできた。障害者が少ないことからそれらの言葉が連想された。また、参加費が高い（非会員15,000円）から良いことが発表されていても、実際障害者のどれくらいの人に伝わるのか、心配である。

講演者が、ある特定の地域に集中していたのも興味深い。地域によりリハ工学の研究開発に格差があることを感じた。これは能力だけでなく、その地方自治体の力の入れ具合などに関係があるのだろうか？

私は、サポート機器についてなにも知らなかった。今回いろいろ情報を収集したが、まだまだ私は知らないことが多すぎる。しかし、これは自分に限ったことではないようにも思った。多くのエンジニアは、障害者のニーズがわかっているだろうか？ また多くの障害者も便利なものがあること、改造される可能性があることを知っているのだろうか？ 改めて情報収集・提供の大切さを知った。プロップでは、障害者の就労をパソコンを媒体として支援していこうとしている。このため、障害者をサポートする機器（パソコン及び操作支援機器等）の情報収集にも力を入れ、蓄えた情報を提供していきたいと考えている。

さらに障害者が仕事をするとき考えるべきことは、生活を行う上での障害の程度と仕事を行う上での障害の程度が、同じ人でも異なるということをしかり認識しなければならないということである。障害者自身がこれを認識し、企業へアプローチできる人は就職しやすい。しかし、これをお手伝いするのもプロップの仕事と考えている。

今回リハ工学カンファレンスに参加して、障害者のこと、リハビリ工学のことなどたいへん勉強になった。今後は、このような全国規模の学会でもプロップ・ステーションの宣伝をしていきたい（今回はFLANKERを数部配布したに留まった）。また、障害を持ち、不便を感じている人に多くの情報を提供していきたい。

何か疑問点、質問等ありましたら、プロップの事務局までお問い合わせ下さい。

